

中高一貫教育、アクティブラーニング

最近、すっきりしたこと・納得したことがあったので書く。

それは「中高一貫教育」、「アクティブラーニング」についてだ。

教育の場では話題になっていることだが、研究者の話を聞くことができたので、整理する。

ただし、自分解釈し納得した部分であることを記しておく。

○小中一貫教育について

当たり前のことだが「義務教育学校」である。

0歳から15歳までどう向き合うのか。

しかし、小中だけでなく、高校にも関係がある。つまり、0歳から18歳までの育て方をどうするかに関わるのである。

また、「地域創成」にも大きく関わる。金沢のように多くの高校がある地域ばかりではない。地域の高校（後期中等教育の場）存続に小中学校の教育が大きく関わる。高校の先生も小中学校の教育に関心を持ち関わることが大切である。

地域創成は教育が握っているのである。

○アクティブラーニングについて

- ・文科省…一方的な講義ではなく能動的な学習、汎用的能力の育成

ねらいは、大学にある一方的な講義を避ける

- ・ { 先生方のオリジナリティーとして授業実践した方が、現場の活気が出るだろう
授業への新しい価値観
答えのない問いへの取り組み
→高等教育だが、小中へ降りてきている

- ・まとめとして、

アクティブラーニングは、授業の改善の視点

カリキュラム・マネジメントは、組織改善の視点

これらをまとめるのが教務主任の腕の見せ所

この古くて新しい課題に取り組む姿が時期学習指導要領をはじめとして今後」の目標である

「学習指導要領に書いてあるから」取り組むのではなく、学校、授業、組織をつなげるために取り組むことが大切である。

さて、この文は「know-how」を書いたのではないので、「じゃ、どうしたらいいの？」ということになろう。一度、教務主任等で学校経営に多少参画した経験がある方にはわかると思うが、そうでない方もいるだろうから困惑するかもしれない。

アクティブラーニングのねらいの1つに「答えのない問いへの取り組み」がある。先生方各自が、どうしたらよいか考え、近くの教員と議論することが大切だと思うし、我々のアクティブラーニングなのかもしれない。

私自身は、「なんだか楽しくなってきた」、というのが実感です。